特別養護老人ホームきはだの郷

基本情報

【用途】　特別養護老人ホーム、ショートステイ、デイサービス、地域交流

【所在】　京都府木津川市

【構造】　木造・平屋

【敷地面積】　14,384.84 ㎡

【建築面積】　5,162.60 ㎡

【工期】　2017 年 7 月～ 2018 年 2 月

【設計】　住建設計

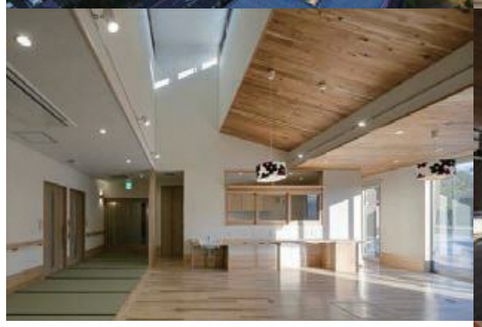
＜概要＞

特別養護老人ホーム 100 名、ショートステイ 20 名、デイサービス 25 名の定員を持つ総合高齢者福祉施設

8 棟の建物を「木造・平屋・分棟」で「集落」のように配置し、プライベート / セミプライベート / セミパブリック / パブリックのうち、セミパブリックゾーンを屋外空間とすることで、より自宅環境に近づくとともに、「ウチ」と「ソト」の関係性が強い生活環境としている。

日々の生活の中でほんの少し時間ができたときは気軽に四季の庭へ出て、春夏秋冬それぞれをテーマにした庭が点在する回廊を散歩し、四季折々の変化を気軽に楽しむことができる暮らしを提案している。

写真・パース



特別養護老人ホーム

ショートステイ

デイサービス

事務所・地域交流ホール

風の街みやびら

基本情報

【用途】　高齢者福祉施設

【所在】　広島県庄原市東城町

【構造】　木造、鉄骨造、混構造

【敷地面積】　不明

【延べ床面積】　4,603 ㎡

【工期】　2014 年

【設計】　CAn+ 大建 met

写真・パース

＜概要＞

特別養護老人ホームとショートステイが 5 棟，デイサービスが 2 棟，本部棟が 1 棟という分棟配置にしている。

小さなリビング（茶の間）を囲む 3，4 室の個室からなる住宅スケールのセット「コ・ユニット」を小さなリビング（茶の間）を囲む 3，4 室の個室からなる住宅スケールのセット「コ・ユニット」を、3 つ組み合わせて 10 人 1 ユニットにしている。

「箱」の家

基本情報

【用途】　特別養護老人ホーム

【所在】　ポルトガル

【構造】　木造・平屋

【敷地面積】　不明

【建築面積】　不明

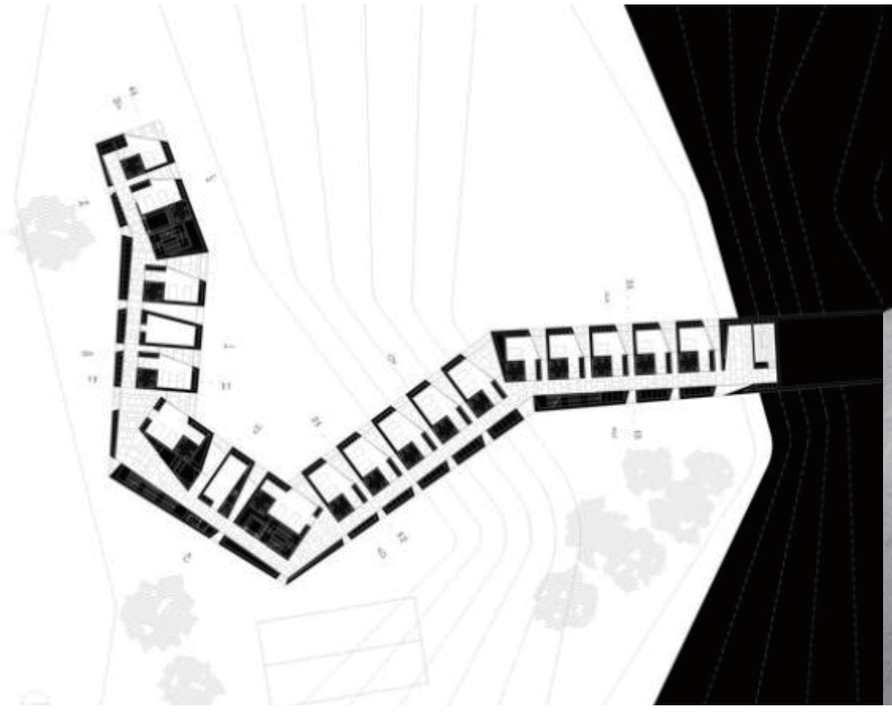
【工期】　不明

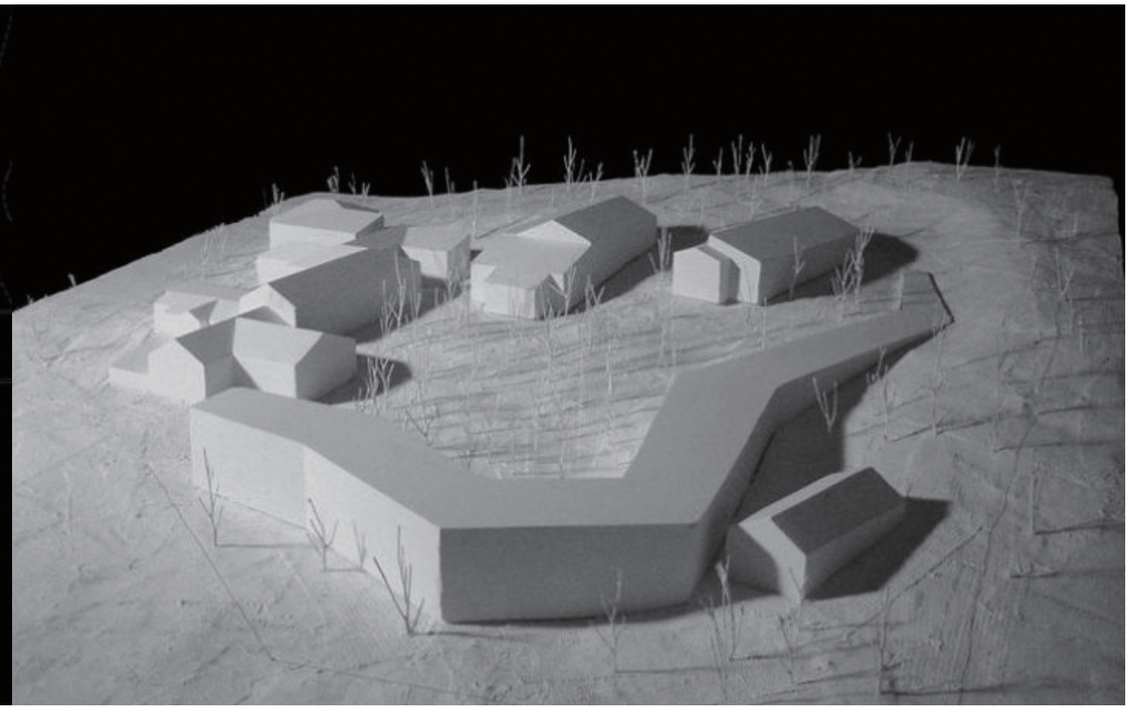
【設計】　ブエノスアイレスマテウスアーキテクツ

写真・パース

＜概要＞

引退した家の建築プロジェクトはその場所に適応し、風景の地形に合わせて上下し、いくつかの点で庭が屋根になります。幾何学的な形と大きな開口部を備えたこのシンプルでありながら明確に表現された建物は、日光を保護するために作られ、各部屋の個別のバルコニーはよく考えられています。建物は風景の中を曲がりくねっており、一方の端から丘にほとんど消えてしまうので、配置も非常に巧妙です。





認知症高齢者グループホーム ここから

基本情報

【用途】　認知症高齢者グループホーム

【所在】　広島県府中市

【構造】　木造

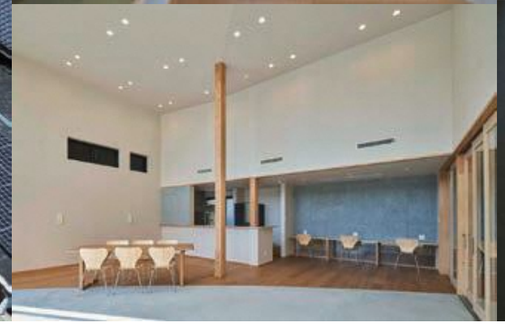
【敷地面積】　1,330.19 ㎡

【建築面積】　727.70 ㎡

【工期】　2019 年 4 月～ 2020 年 3 月

【設計】　西村崇建築設計事務所

写真・パース



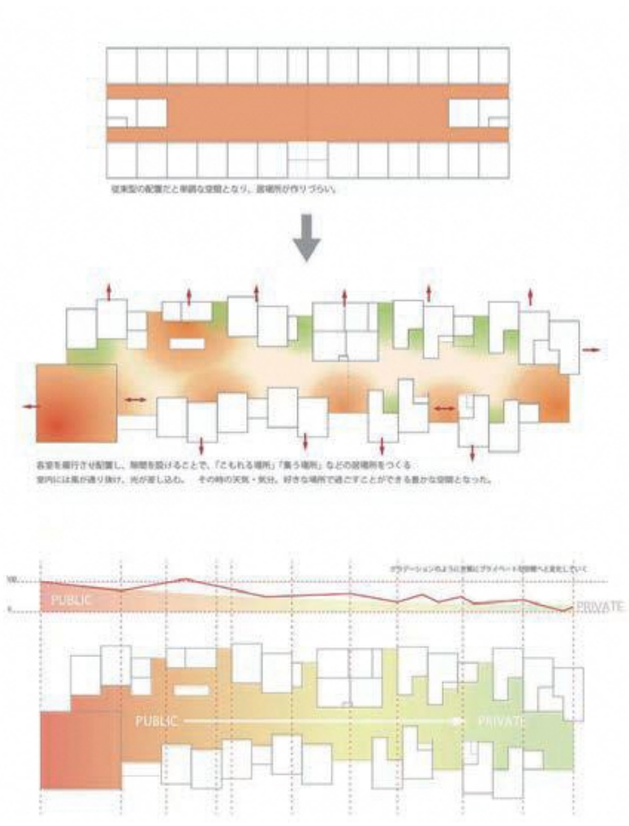
＜概要＞

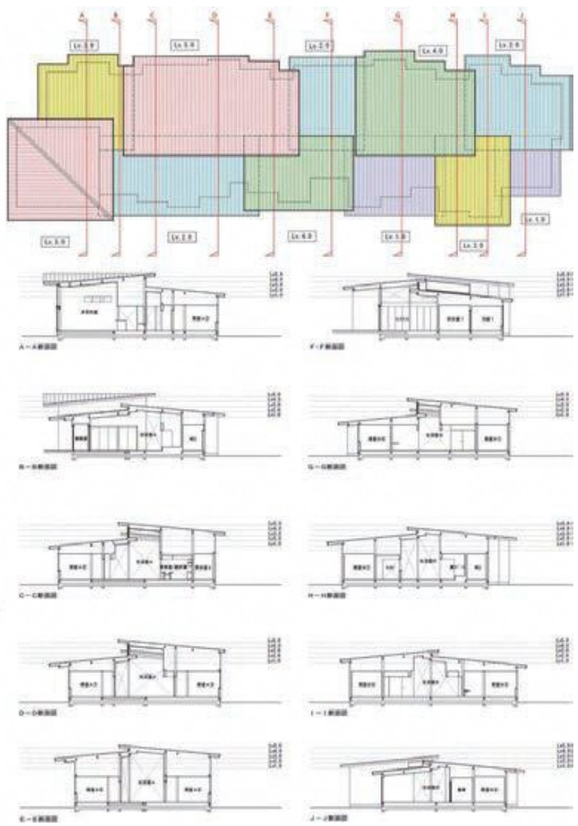
地域との接点

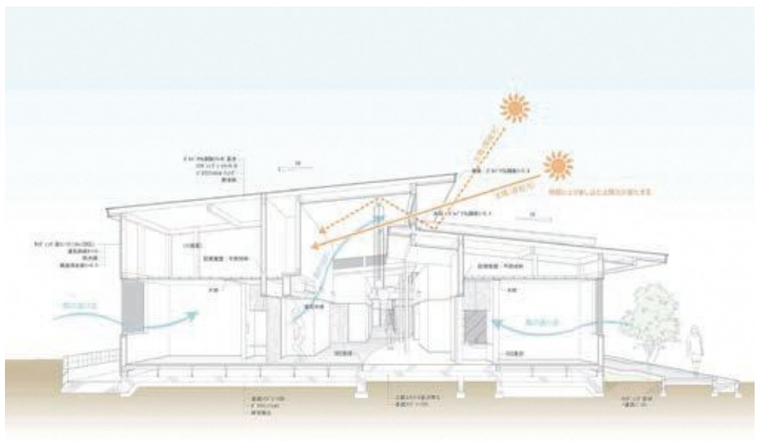
敷地全体の配置計画として、既存施設と囲まれた部分を２期計画で公園化する予定となっており、その公園に面する形で多目的スペースを配置している。

多様な空間構成

各個室は玄関の様な前室や表札、軒先を設けることで一戸の住居と見立てた。その個室を雁行に配置することで、たまり場や死角部分を生み出している。また、屋根の高さをそれぞれ変えることで生まれる隙間から、光や風、音を内部に取り込み自然を感じられるシステムとしている。







ハートホーム平川

基本情報

【用途】　社会福祉施設、寄宿舎、共同住宅

【所在】　山口県山口市

【構造】　地上４階

【敷地面積】　3,499.23m2

【建築面積】　1,831.56m2

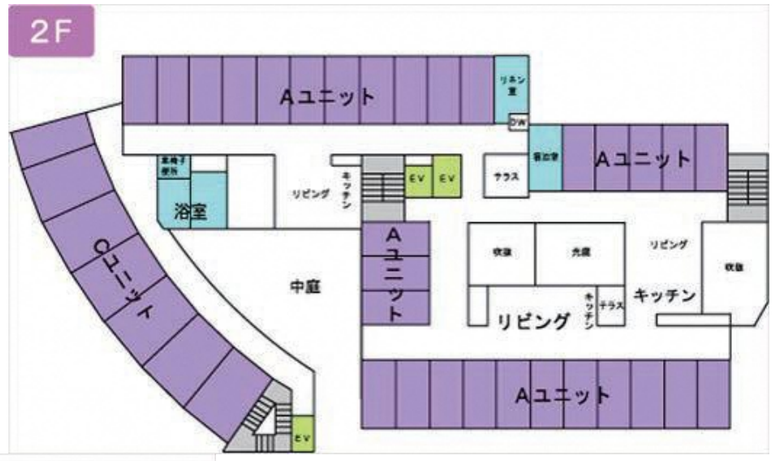
【工期】　2003.2

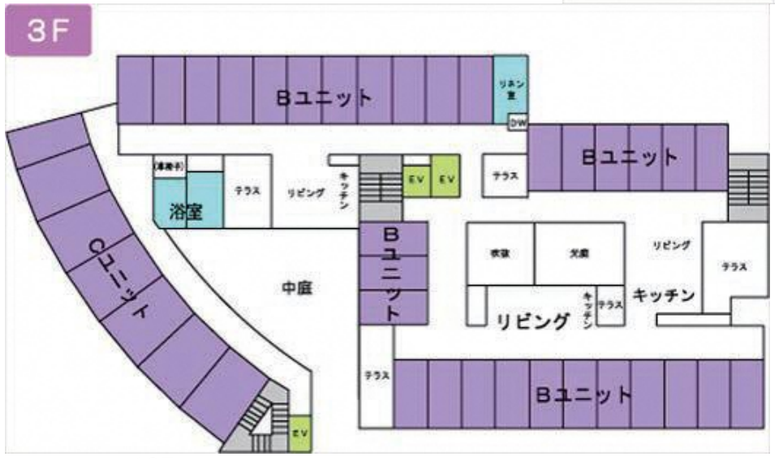
【設計】　大野秀敏＋アプル総合計画事務所

＜概要＞

緑と水をテーマにした２つの中庭を中心に、１階ではデイサービスとグループホームを吹き抜けを持つ豊かな空間に配置し、２・３階では３介護ユニットを１フロアに収めることで、管理に配慮しつつ、外出が難しい高齢者が居ながらにして自然の移ろいが感じられるようにした。水盤とした中央の３層吹き抜けの中庭は、食堂と中庭を大型のガラスで仕切ることにより外部と内部がシンクロし、上層階の音や人の気配が伝わる空間を作り出し、高齢者にとって個室の外は「都市」であり、刺激に満ちた活力を感じるよう配慮されている。要所に設けた小テラスや談話コーナー、きめ細かな収納計画など、ヒューマンスケールのアイデアの積み重ねが施設全体の完成度を高めている。

写真・パース





アクロス福岡

基本情報

	アクロス福岡（福岡シンフォニーホール）
所在地	福岡県福岡市
竣工	1995 年 3 月
主用途	事務所、商業、文化複合施設
構造	RC 造、SRC 造、S 造
延床面積	97,493 ㎡
階数	地上 14 階、地下 1 階
備考	基本構想・共同設計 竹中工務店、エミリオ・アンバース 日本設計

＜概要＞

都会で「ひとつの山を育てる」ことをコンセプトに 14 階建てビルの南側壁面に整備された階段状のステップガーデンでさまざまな植物を育てている。竣工時（1995 年）には 76 種ほどだった樹種は 200 種を超え、野生の鳥や小動物もが住み着くようになっている。スキップガーデンは人が登ることができるだけでなく避難時の避難経路としても利用できる。

＜敷地＞

元は旧福岡市庁舎があった敷地だが、県庁が移転する際に跡地の活用が議論された。

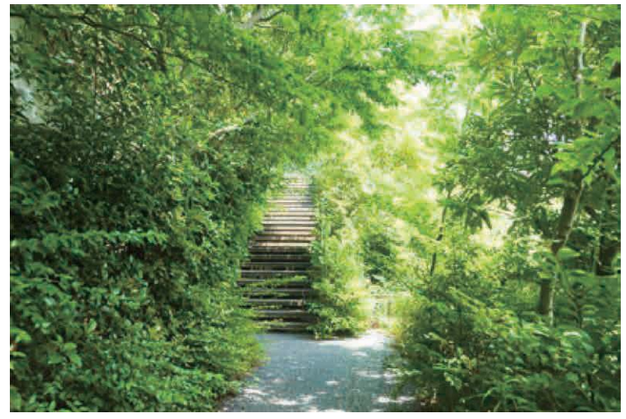
＜計画＞

・建築

巨大なアトリウムを中心として、オフィスや店舗などの民間施設、国際会議場などの県施設が複合した計画となっている。

・ステップガーデン

元は人工土壌を使用していたが、現在では腐葉土に変化している。水を蓄えられる構造により、備え付けのスプリンクラーを使わずに雨だけで植物が成長する。



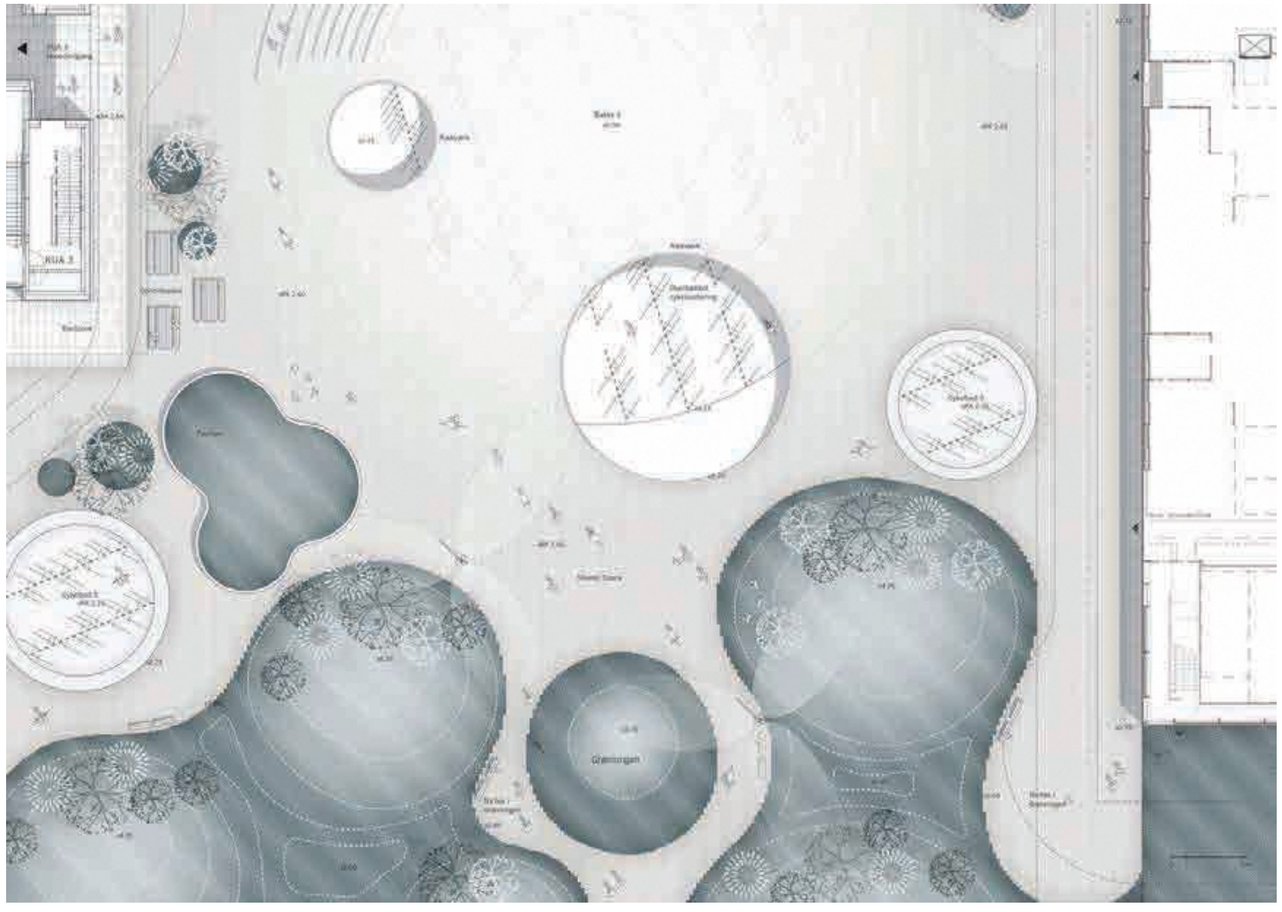
Karen Blixens Plads　自転車の丘

基本情報

	Karen Blixens Plads 自転車の丘
所在地	デンマーク コペンハーゲン　アマー島
竣工	2019 年
主用途	公園、駐輪場
構造	不明
面積	21,415 ㎡
備考	基本構想・設計　Cobe

＜概要＞

コペンハーゲン大学の新校舎とアマー島の自然保護区の間に位置した、庭園と広場が一体となった複合施設。起伏と開口からなる「自転車の丘」は学生たちが集会スペースとして利用できる。また、起伏の下には約 2,000 台の自転車が収容できる駐輪スペースがあり、その３分の２は屋根付きスペースとなっている。デンマークでは自転車を移動手段として利用する人が多く、駐輪スペースは日常生活に欠かせない空間である。



天理駅前広場コフフン

基本情報

	天理駅前広場　コフフン
所在地	奈良県天理市
竣工	2017 年 4 月
主用途	多目的広場、店舗

	多目的広場（芝生）
面積	14,200 ㎡

	古墳 A
用途	屋外ステージ、大型遊具（ふわふわドーム）
構造	PCaPC 造・鉄骨造
築造面積	530.66 ㎡

	古墳 B
用途	大型遊具（すりばち）、休憩スペース
構造	PCaPC 造・鉄骨造
築造面積	539.29 ㎡

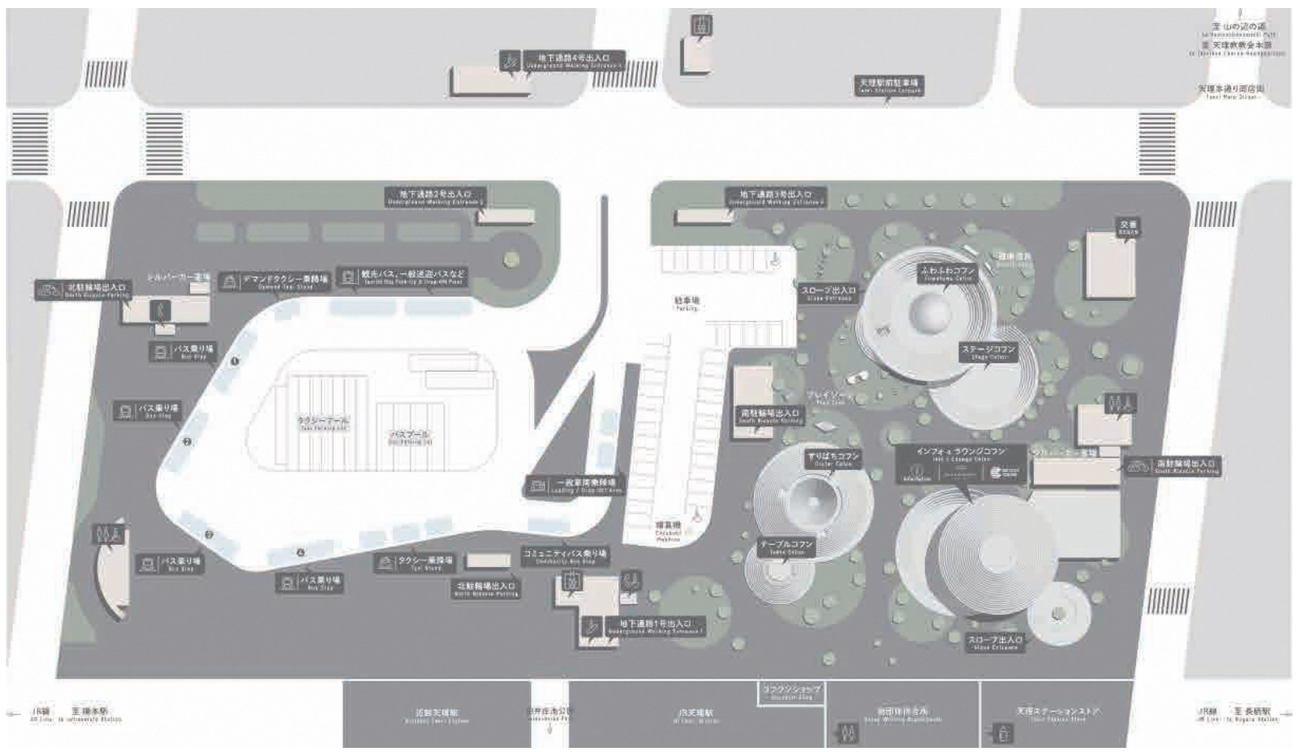
	古墳 C
用途	休憩施設（カフェ）、周辺観光拠点
構造	PCaPC 造・鉄骨造
築造面積	548.41 ㎡

＜概要＞

カフェやレンタサイクルをはじめとするショップ、総合案内所、遊具、屋外ステージ、待合スペースなどを備え、イベントや観光情報の発信、他世代の憩いの場として活用されることで周辺地域の活性化を目的としている。

＜コンセプト＞

天理市内に約 1600 基点在しながら日常生活に溶け込んでいる「古墳」をモチーフに、それらを複数組み合わせて起伏に飛んだランドスケープを作ることで、山々に囲まれた奈良盆地という地理的特徴や同市の歴史や文化を表現した。



GLORY 本社　いこいの広場

基本情報

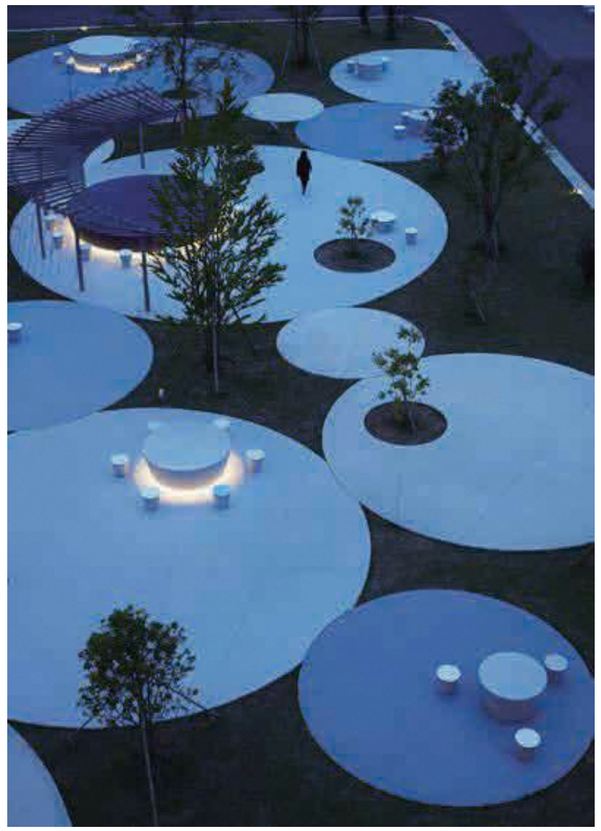
	GLORY 本社　いこいの広場
所在地	兵庫県姫路市
竣工	2016 年
主用途	広場
構造	不明
延床面積	1,400 ㎡
備考	設計 株式会社 NTT ファシリティーズ アートディレクション 株式会社タウンアート

＜概要＞

グローリー本社中央に位置する工場跡地に、当初は記念碑を制作・設置する予定であったが、職場環境に変化を与え、職員がより自発的にコミュニケーションをとる場、会社理念「求める心とみんなの力」を表現する「広場」を目指すこととなった。そのため、社の原点となった硬貨計数機を広場全体に反映した求心力のあるデザインで、視覚的に社の理念や歴史を共有することを軸とした。

＜コンセプト＞

デザインコンセプト「DNA」は、ランチやミーティングなど社員のための活動（＝Activity）を、四季折々で変化を楽しめる植栽計画（＝Nature）が促し、その場と理念を共有し活動を広める（＝Diffuse）ことを示している。広場完成後は、屋外での打合せやテーブルを囲んだ食事会、社員の企画によりユニークな催し物を開催するなど、従来にはなかった新たな気風が生まれている。これらの気風、流れを 5 年後、10 年後あるいは 100 年後までサステイナブルに循環させていく場を目指している。



南三陸町生涯学習センター

事業概要

事業名称	南三陸町生涯学習センター建設事業基本・実施設計業務委託
計画地	宮城県本吉郡南三陸町志津川字城場地内
事業内容	基本設計、実施設計
事業規模	敷地面積:約4,400m² 駐車場:60台程度
事業期間	設計期間:2016年2月～2017年5月 施工期間:2017年7月～2019年2月
応募者数	提案者:１０者 第１次審査通過者:４者
優秀賞 次点	南三陸町生涯学習センター建設事業 基本・実施設計業務特定設計共同企業体 久米・ピークスタジオ設計共同企業体

＜プロポーザルにおいて求める提案＞

(1) 南三陸町の地域状況、敷地の状況を考慮した敷地利用計画案と建物計画案
(2) 基本構想に定める基本方針及び導入する機能を解釈し、住民等が利用しやすい施設計画案
(3) 複合施設であることのメリットを生かした可能な限りコンパクトな施設計画案
(4) 将来の利用の変化にも対応可能な施設計画案
(5) 維持管理コストの低減に配慮した施設計画案

＜総評＞

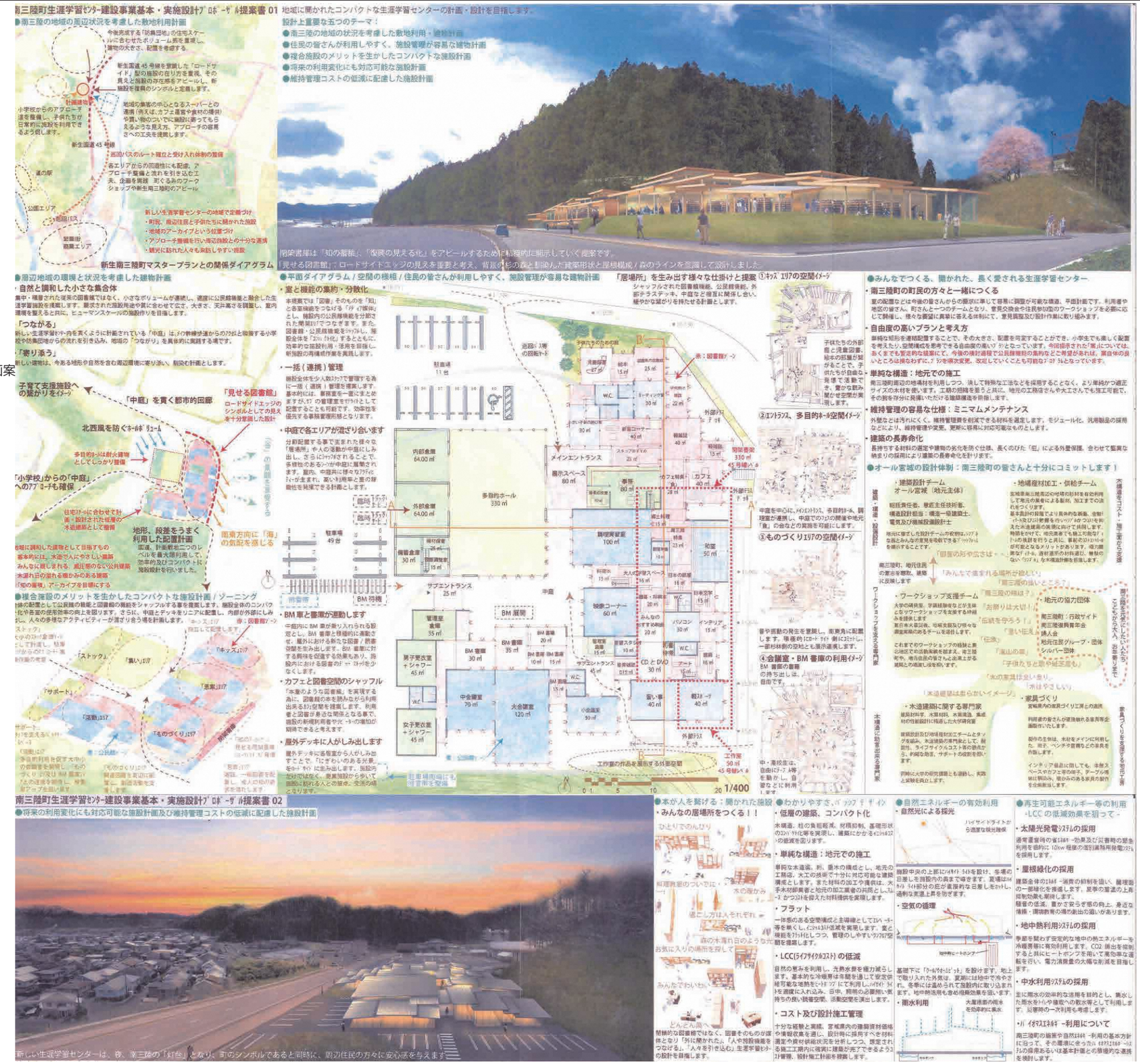
「南三陸町生涯学習センター建設事業基本・実施設計プロポーザル」は、東日本大震災の津波により被災した志津川公民館及び志津川図書館を生涯学習センターとして再 建するため、設計者を公募型プロポーザル方式により選定することとしている。
生涯学習センターは、図書館と公民館の複合施設であり、プロポーザルでは、1 南三 陸町の地域状況、敷地の状況を考慮した計画、2 住民等が利用しやすい計画、3 複合施 設であることのメリットを生かした可能な限りコンパクトな計画、4 将来の利用の変化 にも対応可能な計画、5 維持管理コストの低減に配慮した計画、が求められた。
提案者 10 者からは、これら町からの要求に応じた提案が提出された。審査委員会は、これらの提案が、町が求める提案に応えているか、提案内容が設計のコンセプトを的確 に表現したものになっているかについて審査を行った。
第 2 次審査でヒアリングを行った提案者からは、町の求める提案に対して、独自性に あふれ、また意欲的な提案がなされた。
審査委員会は、この努力に対して、真摯に応えるべく慎重な議論の積み重ねと投票に より審査結果を導き出した。

＜選評＞

優秀賞
この提案は、公民館と図書館の機能をシャッフルすることにより、施設全体のコンパ ク ト化と各室の使用効率の向上を図っている。建物は、木造の平屋建てとなっており、南三陸町の杉を使用し、地元業者での施工を想定する地産地消の考え方など、南三陸町 の地域状況に配慮した計画となっている。また、平屋建てとすることでコスト縮減も図 っている。
施設内は、公民館と図書館の機能が混在しているため、運営については今後の検討が 必要と考えられるが、これまでの公共施設とは異なる考え方に立った独自性のある計画 として評価した。

次点
この提案は、2 階建ての計画であるが、町民利用のスペースを全て 1 階に配置してい る。施設中心に多目的ホール「マチドマ」を配置し、その周囲に様々な用途に利用可能 なシェアスペースを配置する計画となっている。「マチドマ」は可動間仕切りにより解放 可能な構造となっており、周囲のシェアスペースとの一体的な利用も可能な計画となっている。また、構造材に木材を使用する計画となっており、南三陸町の地域状況にも配 慮されている。
施設計画、運用共にフレキシブルな対応が可能な計画となっており、高いレベルで検 討されている計画として評価した。

最優秀賞



那須塩原まちなか交流センター くるる

事業概要

事業名称	（仮称）まちなか交流センター基本設計・実施設計に係る
計画地	栃木県那須塩原市本町6–32
事業内容	基本設計、実施設計
事業規模	敷地面積：3,723.27㎡　　延床面積：1,318.04㎡
事業期間	設計期間：2016年2月～2017年5月　施工期間：2017年7月～2019年2月
応募者数	提案者：１３０者　第１次審査通過者：６者
最優秀賞	藤原徹平／株式会社フジワラテッペイアーキテクツラボ
優秀賞	高橋一平／株式会社高橋一平建築事務所

＜敷地について＞

（仮称）まちなか交流センターと（仮称）まちなか交流広場は、黒磯本通り沿い、黒磯駅から約 200mほどの距離に計画されている施設・広場である。地域交流と観光交流の核として地域住民と観光客、及び異業種間の新たな交流を生み、商店街の拠点性と回遊性の向上や、交流拠点として駅周辺の再興にも繋がる拠点施設としての役割を期待された。

＜設計趣旨＞

那須塩原・黒磯の駅前につくった交流センターと広場である。いままでにない新しい地域交流センターの在り方を模索した。

私たちが最初に考えたのは、大きな屋根を架け、市民のための新しい屋内広場をつくろうというアイデアだ。ほとんどの交流センターはただの多目的レンタルスペースになってしまう。そうではなくて、大屋根の下で、多様な活動がせめぎ合い、訪れた人に新しい発見や出会いを与える場所を創造したかった。「人と食を育む交流の家」というテーマが与えられていたので、フードコート的な空間を下敷きに、シェアキッチン、劇場、音楽室、工作室、などさまざまな活動の領域を重ね、多中心のワンルームとして設計した。平面計画はワークショップを重ねながら変えていったので（着工後も変更が複数回あった）、構造計画と平面計画とは別の論理で構築していった。

大屋根は、長さ約 60m、巾約 20m、天井高 6m とした。高さ 6m の天井高があると、建築物の中にいる意識が希薄になり、まるで都市の広場のように感じる。全体のワンルームの気積が大きいので、空間が密にならないという意味では、ポストコロナの公共空間としても効果的である。

大屋根を支える柱には 480×100mm という扁平につぶした長方形断面の鉄骨ビルトボックスを採用した。向きの異なる 33 本の扁平の鉄骨柱が林立することで空間に方向性が生まれ、シンプルな空間の中に活動のきっかけとなるようなリズムの差をつくった。

建築の外周には曲線の低い屋根が連続する。この曲面屋根は、鉄骨フレーム全体の地震力を鉄板によって伝達していく新しい構造のアイデアである。また、外周の高さを抑えながら曲線の建築としたことで、周囲のスケール感に調和する都市のかたちをつくる建築となっている。
低い屋根の部分には店舗や工作室やシェアキッチンなどヒューマンスケールの活動が入ってくる。

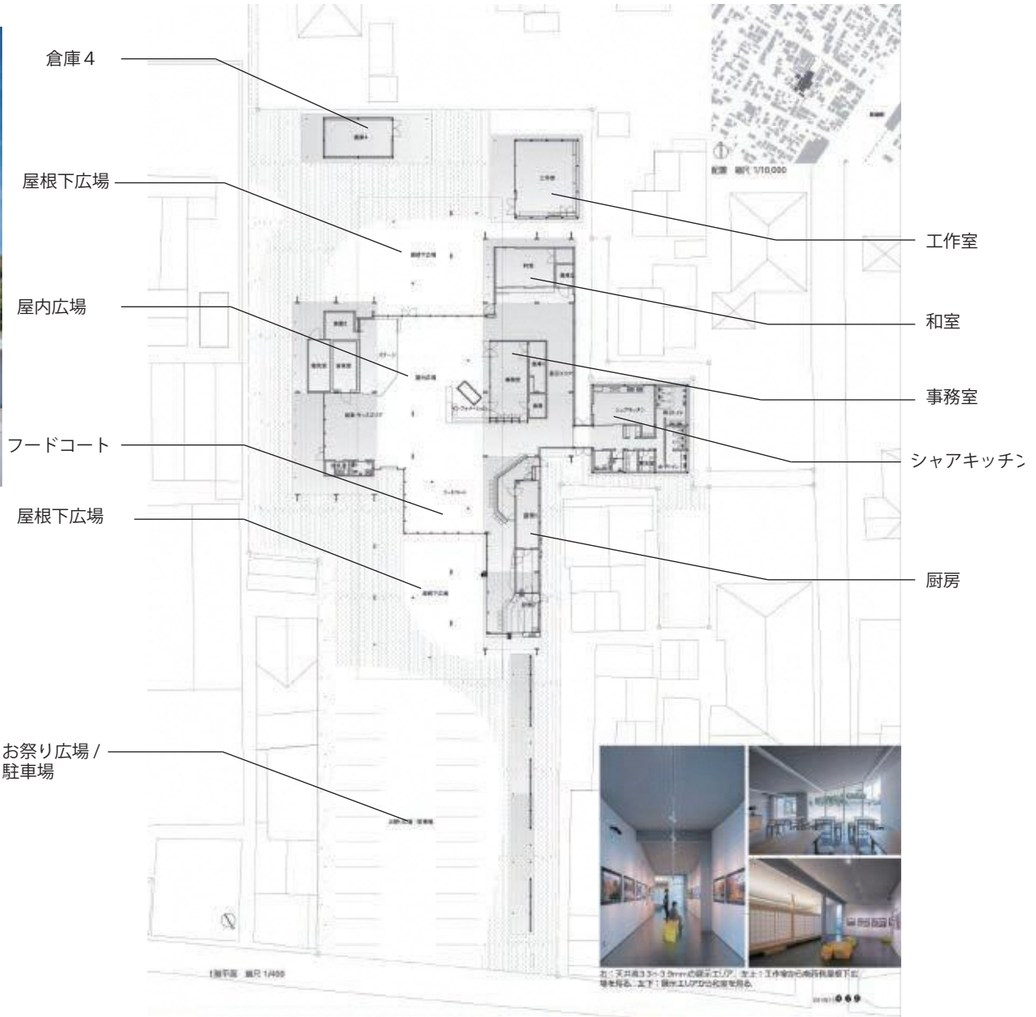
構造体や空間構成の次に重視したのは、広場の在り方で、この建築は、屋外広場、屋内広場、また屋外広場というように広場の連続として考えられているが、駐車場をどう扱うかが課題だった。
駐車場は都市計画や建築デザインの世界では嫌われ者だ。市民が強く要望しているのに都市計画のアドバイザーの先生方は全員駐車場に難色をしめした。
私たちは、あえて駐車場を建築の前面に配置した。駐車場をアプローチ広場、建築の外から活動がやってくる「アクティビティポート」として考えた。日常時はキッチンカーや移動書店などの、モビリティを活かしたまちづくりの社会実験の場になるし、イベント時にはお祭り広場としても機能する。

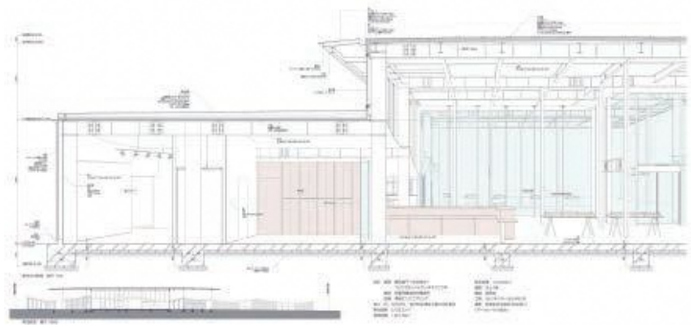
この建築から新しい活動やグループがどんどん出現し、黒磯の地域の文化をつくるまちづくりの実験工場となっていくことを期待している。

藤原徹平／株式会社フジワラテッペイアーキテクツラボ

最優秀賞

藤原徹平／株式会社フジワラテッペイアーキテクツラボ



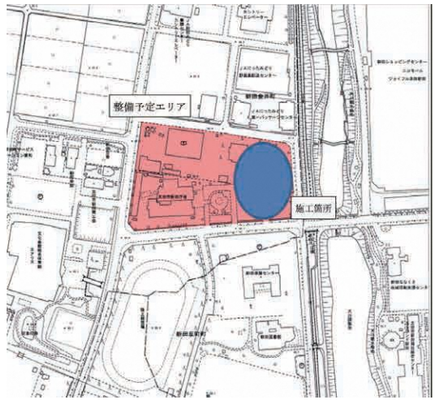


(仮称)太田西複合拠点公共施設

事業概要

事業名称	(仮称)太田西複合拠点公共施設基本設計・実施設計業務
計画地	太田市新田金井町６番１ほか
事業内容	基本設計、実施設計
事業規模	約25,000㎡
事業期間	令和４年３月３１日(予定)まで
応募者数	参加表明書提出者：１５者　技術提案書提出者：８者
最優秀賞	株式会社平田晃久建築設計事務所
優秀賞	株式会社新居千秋都市建築設計

＜敷地＞



複合施設の建設場所は、太田市新田金井町の既存新田庁舎周辺エリア。
既存新田庁舎北の敷地は太田市土地開発公社が先行買収により取得しており、今後太田市が買い戻す予定であることから、これを含めた一体的な整備が可能となる。
既存新田庁舎には現在、農政部などの事務所が設置されており、移転完了後の解体となる。

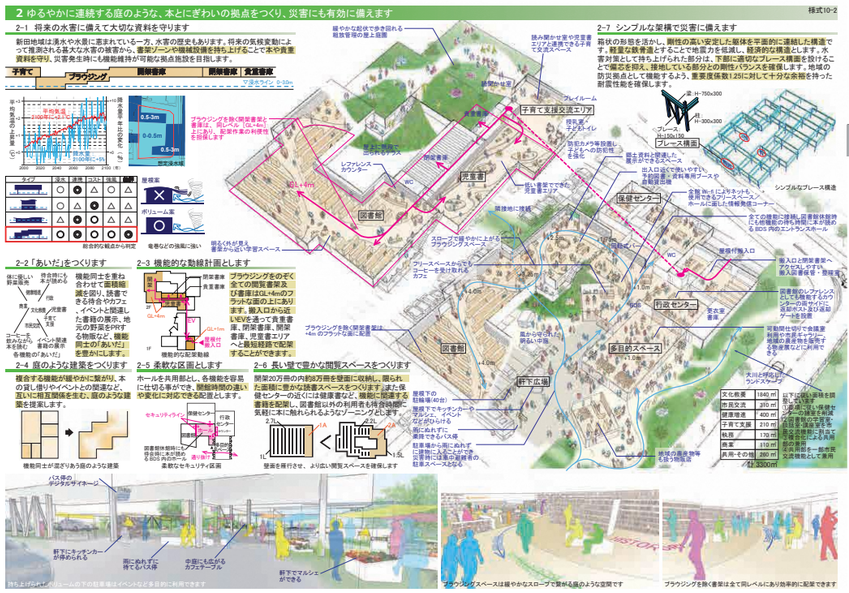
＜選定理由＞

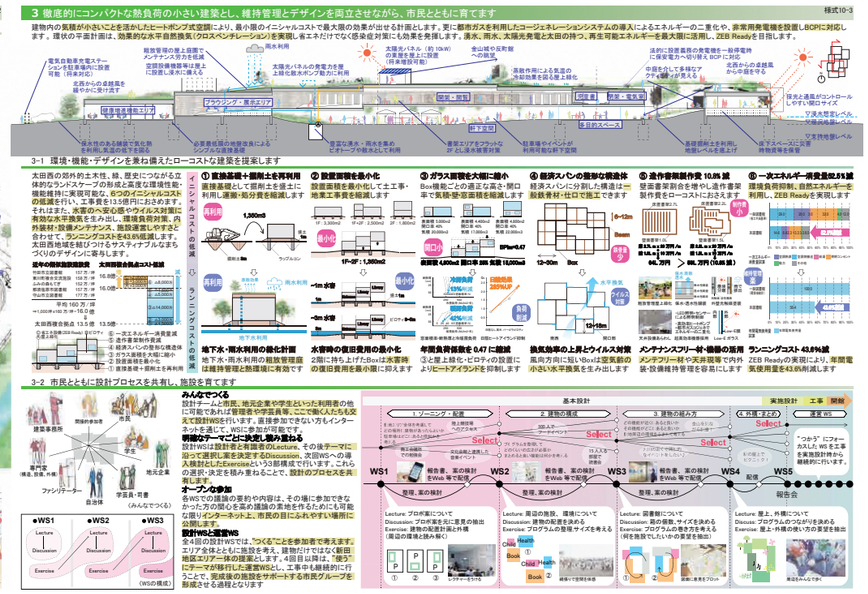
最優秀者である(株)平田晃久建築設計事務所の提案は、「各施設の機能」、「施設間連携・にぎわいづくり」、「環境負荷低減」、「地域との調和」、「災害対策」等全項目において高い評価を得ました。
総合的にバランスの取れたロジカルな企画であるばかりでなく、住民に長く愛され利用されていく地域のランドマークとなり得る卓抜した提案が特に高く評価されました。いくつもの箱が重なりループラインを呈し、複合する機能が緩やかに繋がりながらそれぞれがハーモニーを奏でる施設計画は目を見張るものがあります。また、屋上テラスやイベント等で利用可能な屋根下駐車場といった立体的で合理的な利用が可能となることなど、機能・デザイン・環境を兼ね備えた点は未来的な期待を感じさせます。

令和３年３月１９日　選定委員会委員長　髙橋進

群馬県太田市ホームページ
（https://xtech.nikkei.com/atcl/nxt/column/18/00358/041600087/）

最優秀賞
株式会社平田晃久建築設計事務所





(仮称)太田西複合拠点公共施設

事業概要

事業名称	花の拠点実施設計委託業務
計画地	北海道恵庭市
事業内容	公園実施設計　震災対策用貯水施設設計
事業規模	整備面積 6.0ha
事業期間	平成 30 年 8 月 上旬 ～ 平成 31 年 2 月 28 日
応募者数	3 団体
最優秀賞	高野ランドスケーププランニング株式会社
優秀賞	公表なし

＜業務概要＞

恵庭市（以下「市」という。）は、道都札幌市と新千歳空港の中間に位置し、一日の交通量が2.5万台を超える国道36号や道央・道東自動車道との接続が可能であり、JR恵庭駅に快速エアポートが停車するなど、優れた交通利便性を有しています。

平成17年度までは、年間40～50万人程度の観光入込客数で推移していましたが、平成18年の道と川の駅「花ロードえにわ」（以下「道と川の駅」という。）と「えこりん村」の開業を契機として、観光入込客数が120～130万人に大幅に増加し、交流人口が拡大しました。

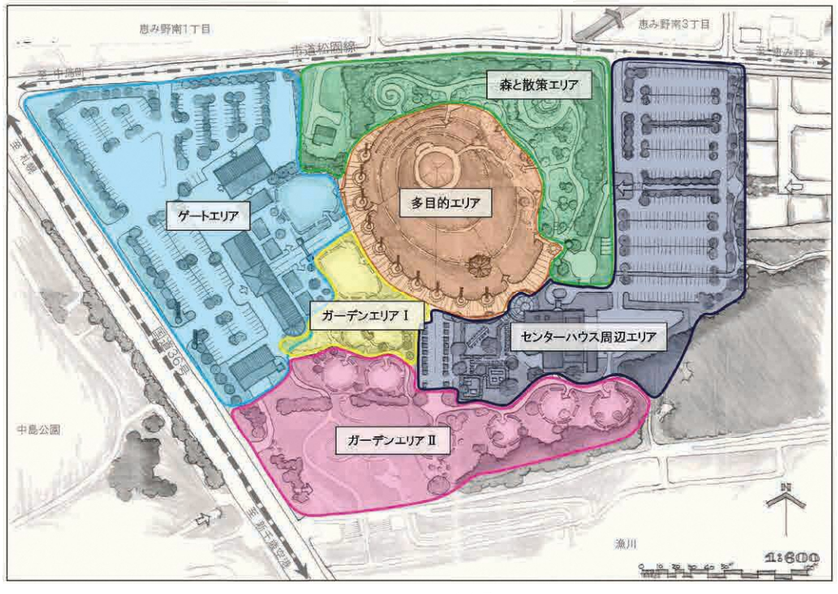
平成29年度の観光入込客数約135万人のうち、道内客が84%を占める約113万人、道外客は約21万人と全体の16%程度です。旅行形態は、日帰旅行が観光入込客数の殆どを占めており、宿泊を伴うものは全体の0.3%にとどまっています。観光入込客数の大半が「道と川の駅」と「えこりん村」に集中している一方で、その他既存観光施設の入込数は横ばいまたは微減の傾向であり、平成27年度に約135万人を記録して以降は伸び悩んでいる状況が続いています。

滞在型観光が主流となり、滞在者が楽しめる体験プログラムの充実などの環境整備が求められています。年間100万人以上の集客力を有する「道と川の駅」は、駐車場の慢性的な不足に加え、厨房やバックヤードなど施設の狭隘や、観光案内機能の弱さなど課題を抱えており、恵庭市の観光起点として市内の観光施設を周遊させる仕組みが必要です。

一方で市は、「花のまち」として有名になりましたが、ガーデニングなどの市民活動により支えられており、観光資源を恵み野地区のオープンガーデン（個人の庭）に依存し、旅行者が気軽に花に触れあう場所がありません。加えて、市民活動に携わる市民の高齢化が進んでいることから、次世代の人材育成が不可欠となっています。花のまちとして花観光を推進するためには、花の観光拠点の整備と人材育成などハード、ソフトの両面での取り組みが求められています。

恵庭市ホームページより
（https://www.city.eniwa.hokkaido.jp/kurashi/index.html）

恵庭 花のビレッジ ゾーニング図



特別養護老人ホーム きはだの郷

事業概要

事業名称	特別養護老人ホーム きはだの郷
計画地	京都府木津川市梅美台１丁目２－２
事業内容	基本設計、実施設計
事業規模	敷地面積：14,384.84㎡　建築面積：5,162.60㎡　延べ面積：5,060.78㎡
事業期間	2017年7月　～　2018年2月
応募者数	不明
最優秀賞	株式会社住建設計
優秀賞	株式会社新居千秋都市建築設計

＜敷地＞

京都府内南部の木津川市にあり、戸建や集合住宅が立ち並ぶ梅美台団地の入り口に位置している、特別養護老人ホーム100名、ショートステイ20名、デイサービス25名の定員をもつ総合高齢者福祉施設である。
8 棟の建物を「木造・平屋・分棟」で「集落」のように配置し、プライベート/ セミプライベート/ セミパブリック/ パブリックのうち、セミパブリックゾーンを屋外空間とすることで、より自宅環境に近づくとともに、「ウチ」と「ソト」の関係性が強い生活環境としている。

＜設計趣旨＞

一時を、感じながら暮らす」ことのできる終の住処
特養は入居者にとっての終の住処であり、365日暮らす家となる。その全員が毎日5分でも「ソト」に出て、五感で日々の外部環境の変化や季節の移ろいを感じられる。そのために8棟の建物を「木造・平屋・分棟」で「集落」のように配置した。外山義氏が提唱したユニット型特養に必要な４つのゾーン（プライベート/セミプライベート/セミパブリック/パブリック）のうち、セミパブリックゾーンを屋外空間とすることで、より自宅環境に近づくとともに、「ウチ」と「ソト」の関係性が強い生活環境とている。

一時間の流れを感じ取れる「四季の庭」
日々の生活の中でほんの少し時間ができたときは気軽に四季の庭へ出て、春夏秋冬それぞれをテーマにした庭が点在する回廊を散歩し、四季折々の変化を気軽に楽しむことができる暮らしを提案。

特養を必要とする高齢者だけでなく老若男女誰もが「住んでみたい」と思える住環境を目指して3つの工夫を行っている。
1つ目は内装に沢山の木を用いてぬくもりを感じられる空間としている。天井に杉羽目板やシナ合板、巾木にスプルース、手摺にゴム集成材、家具に杉板、建具に桧やピーラーを用いるなど、多様な樹種を適材適所に使用。
2つ目は多様な空間の中から入居者それぞれが気分に応じて好きな居場所を選べる計画。部屋の機能に合わせて天井高さを変えるとともに、照明はダウン・ブラケット・ペンダント・スタンドを使い分けて立体的な明かりとした。
3つ目は快適な環境づくり。ほぼ全ての窓を樹脂サッシ+Low-Eガラスとして、結露やコールドドラフトを抑えた。採光・通風確保のため、共同生活室の部屋配置を工夫し、高窓も設けた。
また2ユニット間や水廻りへの裏動線を確保することでスタッフにとって働きやすい環境となっている。

株式会社　住宅設計

最優秀賞
株式会社住建設計

香美市立図書館

事業概要

事業名称	香美市立図書館建設工事　基本・実施設計業務委託
計画地	高知県香美市土佐山田町楠目字大ツカ西地番７３６他３筆
事業内容	基本設計、実施設計
事業規模	敷地面積　約4,100㎡　延床面積　約1,700㎡
事業期間	令和１年度
応募者数	参加表明書提出：２１社　技術提案書提出：１２社
最優秀賞	東畑・依光建築設計企業体
優秀賞	石本・若竹設計共同企業体

＜基本理念＞

人、文化、世代、地域をつなぐ図書館
～「知の拠点」「交流の場」「発信の場」～

香美市は「生涯を通した豊かな学びと文化活動の充実」を教育振興の一つとして掲げています。この考えに基づいて、新図書館は生涯を通して、市民が充実した学びを享受できる環境を整備する必要があります。また、市内に幼稚園・保育所、小中学校、高校、特別支援学校、大学まである特色を活かして、資料や情報が集まる拠点として、学びの継続性を追求していかなければなりません。図書館は、人が集まる施設であることから地域間・世代間の交流の場としても活用します。併せて、市民の学びや交流による活動を発信する場を提供して、さらなる発展につなげていきます。この理念に基づく活動を通じて、人や文化、世代や地域がつながる場を提供しながら、時代や人と共に育っていく施設を構築していかなければなりません。

＜選定理由＞

最優秀者：東畑・依光建築設計企業体
敷地に対する施設の位置がよく検討されていました。施設は平屋で、屋根架構を木材として、極力柱のいらない構造にすることで、見通しがよく、かつ、今後の検討過程において、各スペースの配置替えが生じた場合に、対応しやすい点などが高く評価されました。

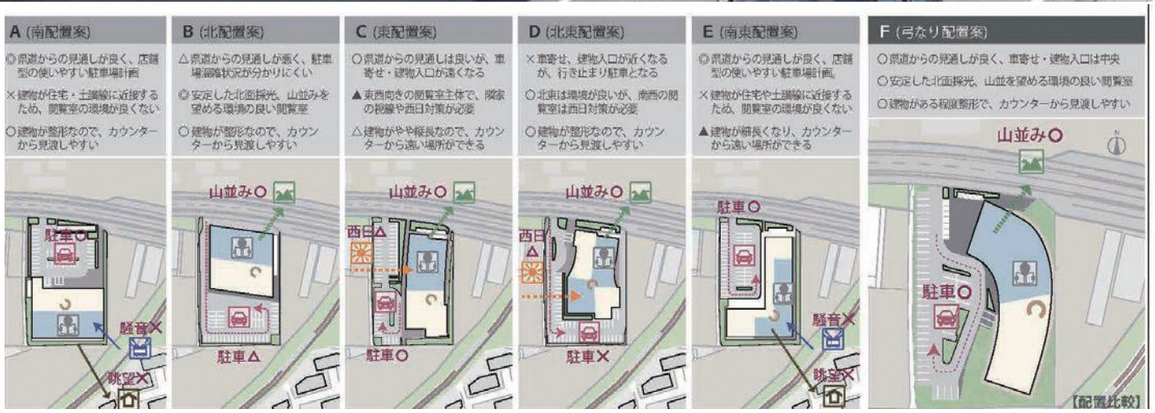
次点者：石本・若竹設計共同企業体
２階にホールを配置し、図書館スペースとは別の出入口を配置することで、ホールの単独利用もできる点や、施設に文化交流広場を設け、市民参画の視点を有している点、木材の積極的な利用などが評価されましたが、大空間による空調に係る費用やメンテナンスの面で懸念がもたれました。

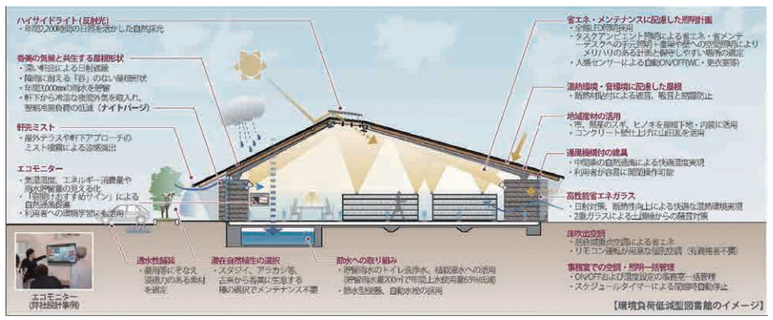
最優秀賞

東畑・依光建築設計企業体

＜計画要点＞

１周辺環境と調和し風景をつくる
２建物配置の複数案の検討
３ひとつの屋根の下に多様な空間をつくる
４木に囲まれた空間
５フレキシブルな無柱空間
６環境・コスト・人にやさしい図書館
７市民に永く親しまれる施設
８確実なコスト・工程管理





香里ヶ丘図書館

事業概要

事業名称	香里ケ丘図書館建替工事設計業務委託
計画地	枚方市香里ケ丘四丁目 2-1
事業規模	敷地面積　約4,100㎡　延床面積　約1,700㎡
建蔽 / 容積率	60% ／ 200%
事業期間	平成29年度
応募者数	３事業社
最優秀賞	株式会社 日立建設設計 西日本支社
優秀賞	株式会社 徳岡設計

＜基本理念＞

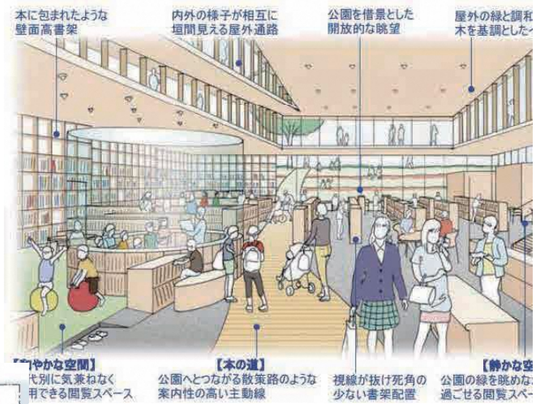
香里ケ丘図書館の建替工事に係る設計業務においては、こうした香里ケ丘地区におけるまちづくりの方向性や課題を踏まえ、建替工事に係る設計業務の前提となる香里ケ丘図書館の施設機能の在り方とともに、香里ケ丘図書館設計の基幹となる隣接する香里ケ丘中央公園との間の機能連携強化に向けた考え方や香里ケ丘中央公園の整備の在り方についても技術提案を求めました。
今回の募集では、まちづくりの観点から「地域の在り方についての考え方」、施設計画については「地域課題の解決に向けた考え方」、「配置計画及び敷地条件の制約についての考え方」、「施設内の空間についての考え方」、維持・運営管理の観点からは「効率的な維持・運営管理の実現に向けた考え方」さらに「業務の実施方針」という点で、事業者からの提案を広く求めました。

＜選定理由＞

最優秀者：東畑・依光建築設計企業体
「みどりを活かし未来へつながる持続可能な都市」というビジョンは、枚方市の都市計画や緑の基本計画とも即しており、まち・人・風景それぞれを「つなぐ」というコンセプトのもと、新しい機能を持つ香里ケ丘図書館と香里ケ丘中央公園のブランディング化を見据えた「香里ケ丘モデル」の一体的な整備によってまちづくりが実現するという提案を高く評価しました。
施設計画では、様々な世代をつなぐ「本の道」という構想に基づく、一般書架と読書テラスとの連携や多目的室の柔軟な利用方法などの提案があり、様々な利用者層を想定した使いやすい動線や書架の配置などの提案からは、香里ケ丘図書館の一層の発展が期待できます。
香里ケ丘図書館と香里ケ丘中央公園の連携についても、屋外で香里ケ丘中央公園の自然と触れあえる「みどりの丘」で利用者が様々な目的で交流できる広場の提案を評価しました。

最優秀賞：株式会社　徳岡設計
香里ケ丘図書館、香里ケ丘中央公園それぞれについては、よく考えられている優れた提案でしたが、香里ケ丘図書館と香里ケ丘中央公園の連動については、ブリッジによる移動の確保に留まっており、具体的な利用形態についても、更なる提案が望まれるものでした。
配置計画では、バリアフリーのアプローチ、駐輪・駐車場の確保については、「ゆずりあいの駐車場」などが提案されており、施設計画の提案では、従来の利用状況を踏襲した児童書架への配慮について目配りが成されていますが、一般開架の閲覧スペースとしての魅力や、児童書架からの動線については検討の余地が残るものでした。
全体的には従来型の図書館としてのイメージが強く、最優秀提案者との判断に至りませんでした。

最優秀賞
株式会社 日立建設設計 西日本支社



https://www.city.hirakata.osaka.jp/cmsfiles/contents/0000011/11114/teian01.pdf
https://www.city.hirakata.osaka.jp/cmsfiles/contents/0000011/11114/teian02.pdf
https://www.city.hirakata.osaka.jp/cmsfiles/contents/0000011/11114/teian03.pdf

香美市立図書館

事業概要

事業名称	黒石市立図書館整備設計業務
計画地	黒石市大字内町 24 番 1 地内（駐車場の面積約 1,400 ㎡）
事業内容	基本設計、実施設計
事業規模	延べ面積：本館（新設）1,500㎡程度
委託期間	契約締結日から令和3年2月10日まで
応募者数	5事業者
最優秀賞	みかんぐみ・蟻塚学設計共同体
優秀賞	楠山設計＆ジオーグラフィック・デザイン・ラボ設計共同体

＜基本理念＞

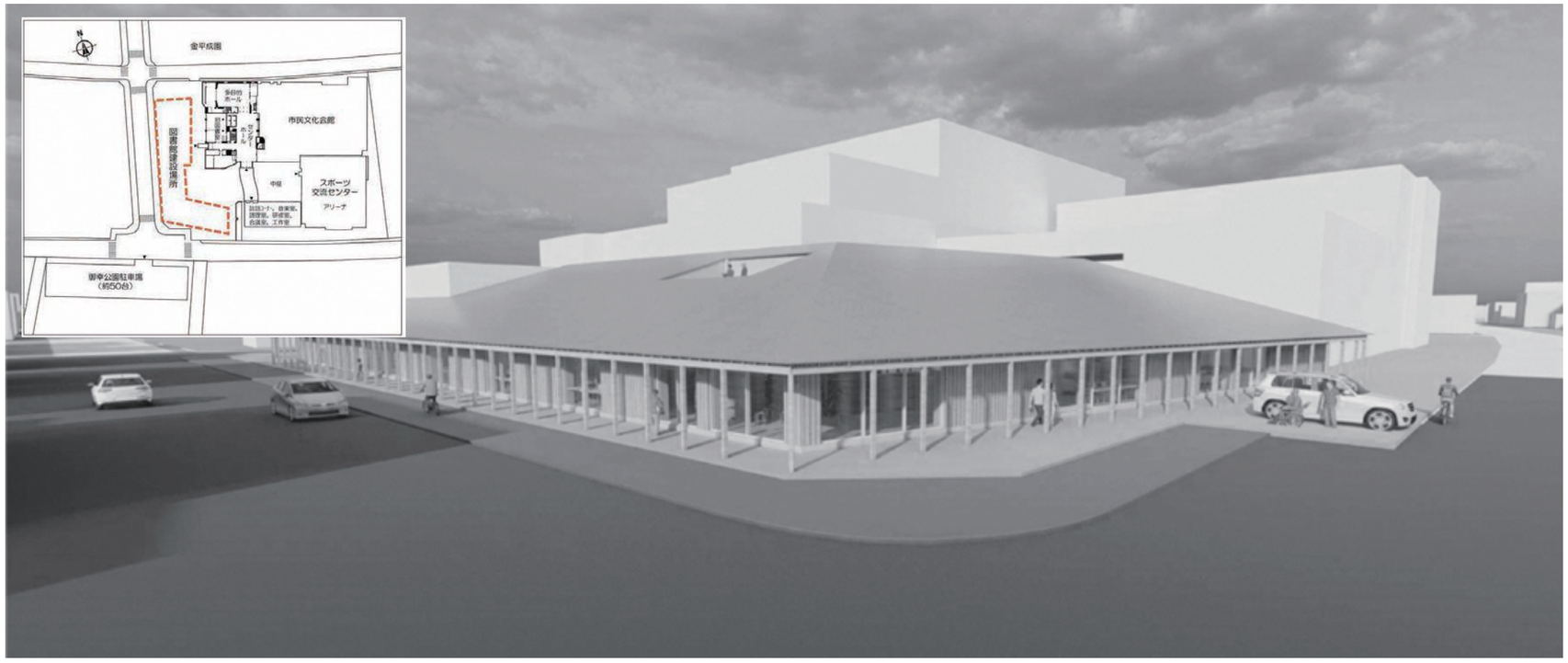
将来を見据えた、市にとってふさわしい図書館像として、次の 3 つを目指すものとします。
① 学びあう図書館
生涯学習と社会教育による人づくりの拠点として、豊かな読書環境と情報社会に対応した学習環境の確保、地域の情報を発信することにより、誰もが知識に出会い、郷土に誇りを持ち、夢と希望を持って、ともに学びあえる、文化と人材の揺りかごとなる図書館を目指します。
② 憩いと賑わいの図書館
様々な利用目的や世代に応じた居場所を設け、誰もが集うあずましの空間づくりを行うとともに、立地を生かし周辺の公共施設や文化財などの地域資源との連携により、中心市街地の回遊性を向上させ、まちの賑わいを生み出す図書館を目指します。
③ 市民の力を育む図書館
図書館を生涯学習のまちづくりの実践の場とすることに加え、図書館を中心に暮らしの様々な場面において、本や読書を通じて市民同士が関わりあうことにより、心のぬくもりを広げ、市民の力を育む図書館を目指します。

＜選定理由＞

最優秀者：みかんぐみ・蟻塚学設計共同体
本と人が出会い、
まちへと繋ながる「みち」の図書館をコンセプトに、館内中央の通路に沿って書架や各スペースを配置するなどの提案がなされた。
審査においては、図書館の運営や計画にも精通しており、行政、そして市民と一緒に計画を進めていく姿勢が最もわかりやすく信頼できるという審査評であった。

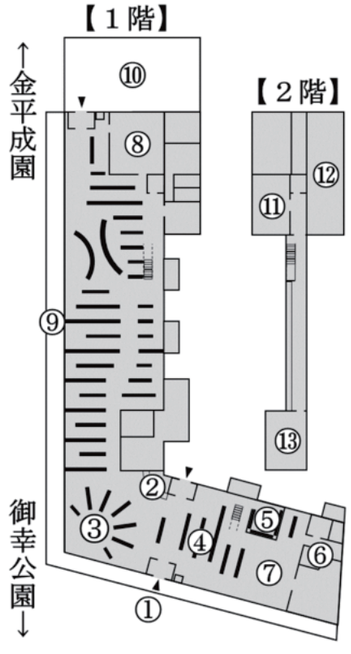
次点者：楠山設計＆ジオーグラフィック・デザイン・ラボ設計共同体
「共育×共感×共創する図書館」をコンセプトに、多数の交流機能を配置し、中心市街地活性化を目指すなどの提案がなされた。

黒石市立図書館の設計（基本設計の概要



設計コンセプト
豊かな読書環境と学習環境を確保するため「本と出会うみち」をコンセプトとした空間にします。敷地に合わせ南北に抜ける道を設定し、書架やスペースの間を歩くことで、本や情報と出会う機会を創出します。

建物について
延床面積 1,500 平方メートル前後の 2 階建てで、 1 階を広くとり、景観とユニバーサルデザインに配慮した建物とします。道路沿いにはこみせを設け、黒石らしさと機能美を両立します。黒石公民館旧図書室も活用して約 10 万冊を収蔵可能とします。館内を静かな空間と会話ができる空間とに緩やかに分け、さまざまな利用者に対応します。



【１階】
① メインエントランス
② サービスカウンター
③ 郷土資料・憩いの閲覧スペース
④ 新聞雑誌・生涯学習の成果等の展示コーナー
⑤ キッズスペース
⑥ 授乳室・多目的トイレ
⑦ 飲食・交流スペース
⑧ 市民活動・ボランティア活動室
⑨ こみせ
⑩ 屋外読書スペース

【２階】
⑪ 学習室
⑫ 閉架書庫
⑬ 読書テラス

【その他】
・無料公衆Wi-Fiスポット
・自動貸出機
・図書除菌機　など

http://www.city.kuroishi.aomori.jp/shisei/keikaku/shiritsu-toshokan.html

伊東市立図書館

事業概要

事業名称	伊東市新図書館基本計画、基本設計及び実施設計等業務
計画地	伊東市桜木町二丁目６７２番４ほか１０筆
事業規模	敷地面積　約4,000㎡
建蔽 / 容積率	80% ／ 300%
履行期間	令和３年７月（契約日）から令和４年１１月３０日まで
応募者数	5事業者
最優秀賞	有限会社マル・アーキテクチャ東京事務所
優秀賞	株式会社山下設計

＜基本理念＞

単に図書館及び生涯学習センターの複合施設としての設計を行うものではなく、公共図書館としての利便性はもとより、ＩＣＴの利活用や新型コロナウイルス感染症の影響を踏まえた新たな図書館サービスの提供を見据える中で、伊東市新図書館のサービス計画・管理運営計画・施設整備計画・開館準備計画などを包含した基本計画策定業務を設計業務と平行して一体的かつ効率的に実施するといった、市にとっては新たな試み

伊東市新図書館基本構想に基づき、伊東市新図書館には次の７点の機能を整備するものとします。1. 交流機能 / 2. 一般コーナー機能 / 3. 伊東市情報センター機能 / 4. 児童コーナー機能 / 5. ティーンズコーナー機能 / 6. 生涯学習センター機能 / 7. ＩＣＴ機能

＜選定理由＞

最優秀者：有限会社マル・アーキテクチャ東京事務所

本提案は、伊東市の魅力を市民自らが世界に向けて「創造」・「発信」する拠点として、伊東市新図書館を「国際観光温泉文化都市いとうのまちのミュージアム」に据え、市街地を中心とした市内全域に「にぎわい」、「癒し」、「憩い」を生み出すとする提案でした。

施設計画に関しては、基本構想に掲げる７つの拡充機能が存分に取り入れられ、図書館及び生涯学習センターのフロア内に「ひだ」と呼ばれる特徴的な放射状の壁を配置し、用途を分節化しつつフロア全体を構成する手法は、新規性が高いと評価されました。

防災・防犯面等で配慮すべきとの指摘もありましたが、今後、市関係部局・図書館、市民との連携のもとに、設計が進められることにより、市全体と調和が図られた「国際観光温泉文化都市いとう」のシンボルとなり得る図書館が実現する可能性が最も高いと評価されました。

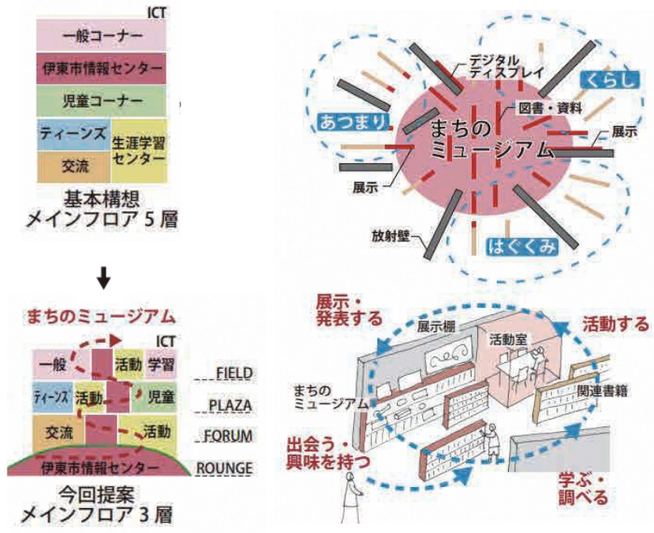
次点者：株式会社山下設計

本提案は、人が集い、憩い、活動し、交流が生まれる"まち・ひと・歴史をつなぎ育む創造拠点"をテーマに、基本構想や伊東市の地形、地域資源等について十分に研究された提案でありました。

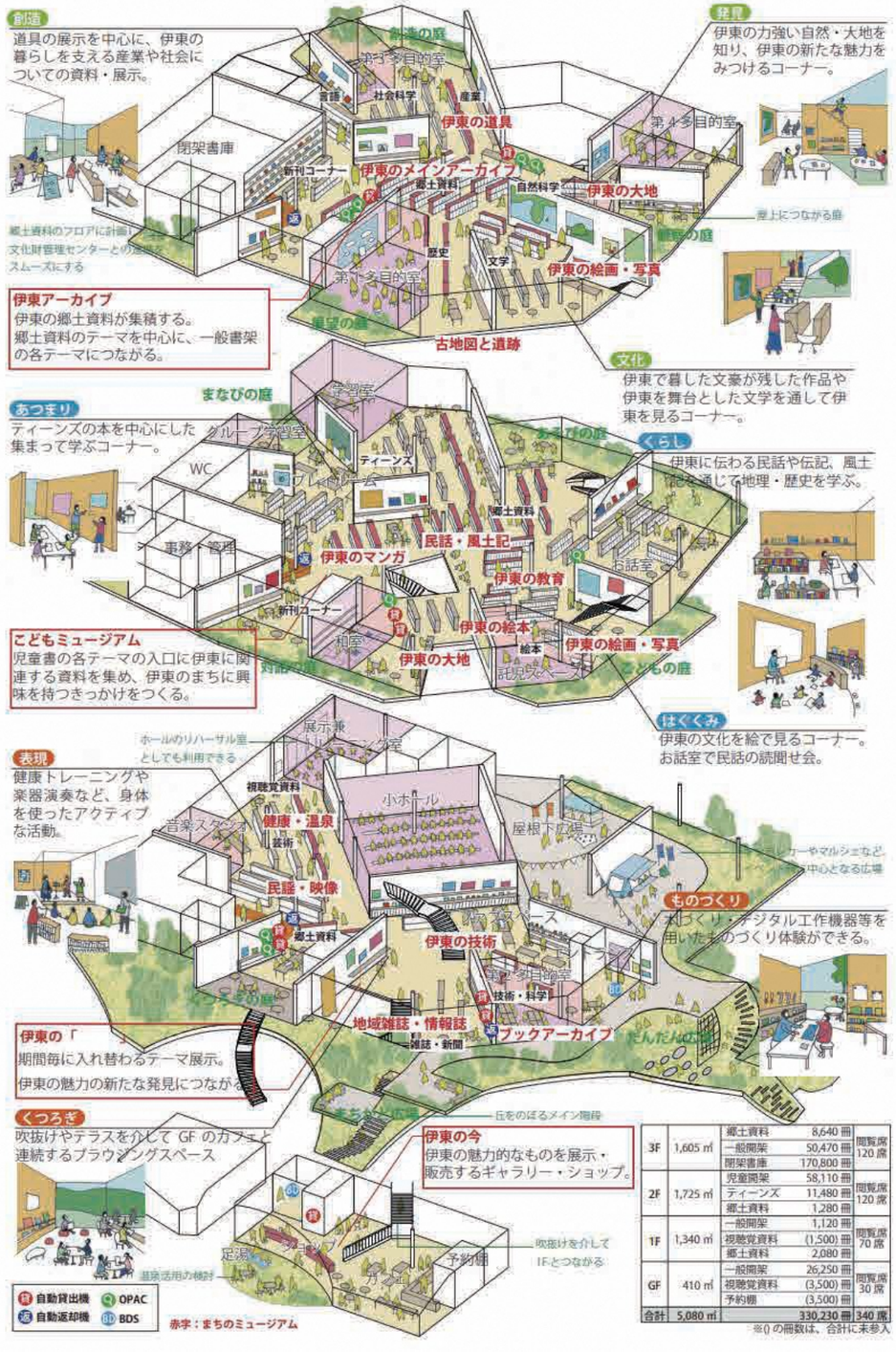
施設計画では、「ＩＴＯリビング」と名付ける大きな吹き抜け空間を中心に、訪れる方々に回遊性を与える"大きなワンルーム"は、高評価を得ました。一方、曲面を基本とする構成には評価が分かれた結果、最も優れた提案には及ばず、次点者となりました。

最優秀賞
有限会社マル・アーキテクチャ東京事務所

テーマごとの「コーナー」と全体をつなぐ
「まちのミュージアム」で７つの機能を融合



ゆるやかにまちとつながる「丘」



3F	1,605 ㎡	郷土資料	8,640 冊	閲覧席 120 席
		一般開架	50,470 冊	
		開架書庫	170,800 冊	
2F	1,725 ㎡	児童開架	58,110 冊	閲覧席 120 席
		ティーンズ	11,480 冊	
		郷土資料	1,280 冊	
1F	1,340 ㎡	一般開架	1,120 冊	閲覧席 70 席
		視聴覚資料	(1,500) 冊	
		郷土資料	2,080 冊	
GF	410 ㎡	一般開架	26,250 冊	閲覧席 30 席
		視聴覚資料	(3,500) 冊	
		予約棚	(3,500) 冊	
合計	5,080 ㎡		330,230 冊	340 席

※() の冊数は、合計に未参入

https://www.city.ito.shizuoka.jp/material/files/group/30/gijyututeiansyo.pdf

七ヶ浜町立遠山保育所

事業概要

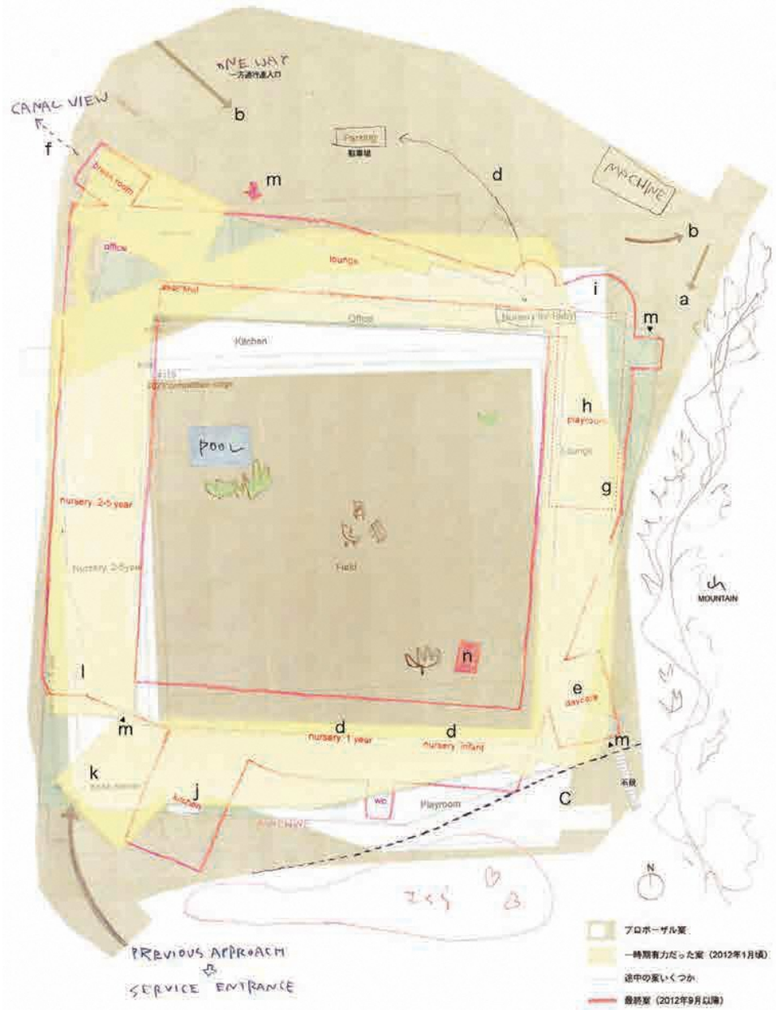
事業名称	保育所改築基本設計及び実施設計の簡易公募型プロポーザル
計画地	宮城県七ヶ浜町
事業内容	遠山保育所の新築における基本設計及び実施設計業務等
事業規模	保育所 延べ面積 1000 平方メートル未満
事業期間	平成 24 年 6 月～平成 25 年 2 月
最優秀賞	風越工業株式会社一級建築士事務所　髙橋一平

＜概要＞
個性的な七つの浜となだらかな丘陵地帯。大都市近郊として高い利便性を享受しながら、多様な自然が満喫できる七ヶ浜町は、急激な都市化が進んだ仙台圏において豊かな生活環境が用意されている数少ない場所と言える。しかしながら、そうした町も今回の大震災によって計り知れないダメージを受け、多くの尊い命が失われた。
発災から約半年たち、がれきの撤去、仮設住宅への入居など、基本的な部分がようやく整っては来たが、本来の意味での復興、つまり以前よりもっと素晴らしい場所にするために試みはまだ始まったばかりといえる。
本事業は、震災で大きく傷ついた七ヶ浜町遠山保育所を新たに建て替えるために設計者を選定する復旧事業の一環である。同時にこれは、そうした前提は守りながらも、前述のように大きな傷を受けたこの地域全体を安心して暮らせる場所として自ら再生する「創造的復興」のとりかかりとしての意味を持っている。

＜選定理由＞
近くに海をのぞみ、自然環境が豊かで平穏な地域であったことから、そうした場所の雰囲気を建築が掻き乱すことなく環境と一体化し、一方で町のモニュメントとして一体化してもなお堂々と残る永遠性が感じられるあり方を考えた。
保育所に必要な空間は、町の人々と一緒に幾度もの話合いを経て、飛び出した要望を実直に並べていった。結果、建築としては幾分不規則な形状になった。この一回性の設計プロセスにより、町の人々は自宅の民家の庭や身の回りの環境を直感的に整えていくのと同じ感覚を募らせ、例えば都市が、人間の活動をダイレクトに映し出すよう発達し次第に都市固有の価値を形成していく具合に建築がつくられていく。特に子どもにとっては、色んな年齢の園児や大人が集まる小さな集落や町みたいに感じられるはずだ。とてつもない速さで設計が進む中、様々な要望がスプロールを起こしあわや破綻しそうな集落を守り続けるには、低空に四角く切り取られた園庭が、集合における普遍的な環境として役立った。そのおかげで外周部がどれほど混沌としても、要素の意味が希薄になり、そのひとつ一つがなぜそうなっているかなどわざわざ思い描かさず、全体がある環境として捉えられる。それによって、この保育所を訪れる町の人々の日常に、ある種の旅のような解放的な体験を少しだけもたらすことができるからだ。
建築は、与えられてそれを消費するというようなものではなく、そこでつくるものだ。初めから出来合いのものをそのまま応用するのでなく、状況に応じ最初から組み立てることを心がけた。ぎらぎらとした外観も、人々の参加も、これまで繰り返し用意された典型的な保育園建築からの決別だ。ここでは子どもも大人も花や草木や鳥も太陽も雨も、散らかった机や壁の絵も遊びも、ひとたび保育が始まればすべてが一体化し、色鮮やかにきらきらと輝くのだ。
こうして、色んなことがあったけれどみんなで苦労して一緒につくったという事実が、いずれ町の歴史の一つに加わることを待ち望んでいる。

髙橋　一平

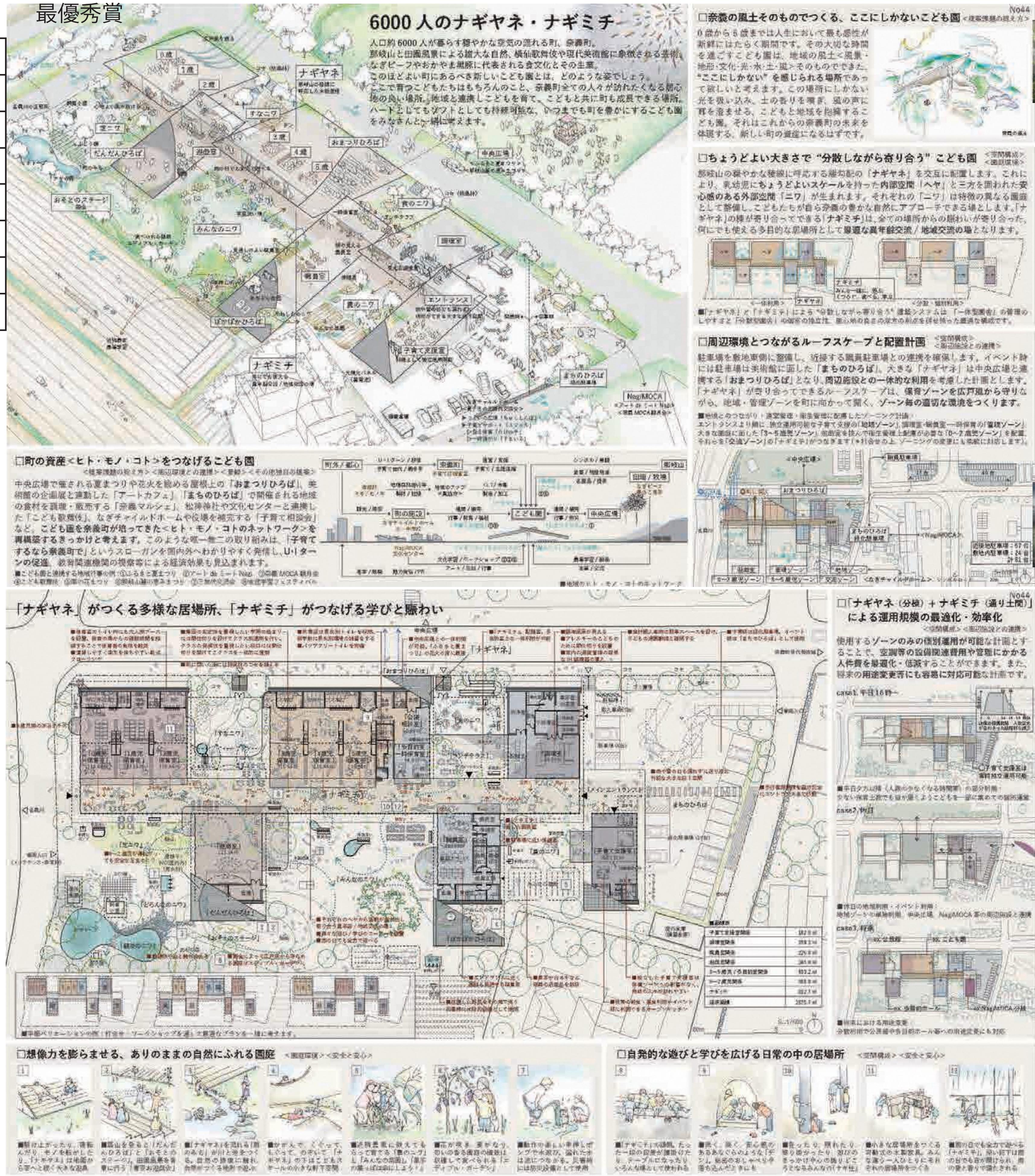
最優秀賞



奈義町立こども園

事業概要

事業名称	奈義町立こども園建設事業
計画地	岡山県勝田郡奈義町豊沢 513 番地 2 他
事業内容	基本設計
事業規模	延床面積：2,700 ㎡以下
事業期間	2019 年 7 月～2023 年 4 月
応募者数	46 件
最優秀賞	楠山・マウントフジアーキテクツスタジオ共同企業体
優秀賞	株式会社 SUEP

＜概要＞
奈義町における乳幼児の保育・教育支援の提供は、0 から 3 歳児は「保育園」、4 から 5 歳児は「幼稚園」という年齢区分で受け入れ、現在、保育園は 1 園、幼稚園は 2 園という組織体制で運営している。
保育園については、旧幼稚園園舎に増改築を重ねて使用しているが、老朽化と設備や機能の不十分さ、安全面における不安から、園舎に対する様々な要望等が出されるようになりました。幼稚園については、放課後や土曜預かりの増大等をはじめ、新たに 3 歳児からの受け入れを求める教育的ニーズの高まりにより、現施設での対応が困難な状況となっている。
これらのことから、平成 29 年度に制定された「奈義町学校教育改革プラン」において、学校教育目標を「夢に向かって 自ら学び ともに高めあう「なぎっ子」の育成」と定め、0 から 5歳児までの連続性のある保育と幼児教育を推進し、現在の保育園と幼稚園 2 園を統合して「幼保連携型認定こども園」を建設することを方針決定した。
このプロポーザルは、「こども園」の整備を進めるにあたり、高い技術力と豊富な経験等を有する設計者を選定することを目的に実施している。

＜選定理由＞
園舎は東西に伸びる通り土間（ナギミチ）を軸として、片流れのナギヤネを交互にかけたシンプルな構成である。屋根のない部分は三方を囲われた庭となり、保育室と外部空間が交互に配されることで内外空間との密接な繋がりを確保しているのが特徴である。屋根は、那岐山の稜線と呼応する勾配を持ち、リズミカルな並びが地域に新しい景観を生み出している。地場産の木材を用いた CLT を用いたもので、工期短縮と工事コストの低減につなげようとしている点が独自の提案となっている。ナギミチの内外空間としての扱い方、上下足の運用のし方などについては、内外空間を活かした保育のあり方の実現と密接に関連しており、設計課題として検討されるべきである。また、河川氾濫時の安全確保についての懸念が指摘された。
解決すべき課題はあるものの、新しい建築的な提案により従来のこども園にない環境を作り出しており、全体として景観、園庭環境に対する評価が極めて高く、受託候補者として評価された。